

別表第1

杉野服飾大学大学院 造形研究科 造形専攻 カリキュラム表

授業科目名	単位数			履修方法			配当年次	週時間数		備考
	講義	演習	実験実習	必修	選択	自由		前期	後期	
美の考察	2			○			1	2		
創作技法研究Ⅰ		4		○			1	4		
創作研究Ⅰ		4		○			1	4		
創作技法研究Ⅱ		4		○			1		4	
創作研究Ⅱ		4		○			1		4	
創作研究Ⅲ		6		○			2	6		
修了制作		6		○			2		6	
計	2	28								
メディアと造形表現	2					○	1	2		
パリの文化と日常の美	2					○	1	集中		
計	4									
必修科目30単位を修得し、かつ修了制作の審査に合格することを修了要件とする。										

授 業 科 目 の 概 要			
(造形研究科造形専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	美の考察	<p>(概要) わたしたちは、美しいものを見てなぜ美しいと感じるのか？ そもそも美しいとはどのような状態を指すのか？ それを感じとる感受性とは何に由来するのか？ これらの一見素朴な問は、しかし、わたしたちを奥深い美の世界へいざなう契機となり得るものだ。</p> <p>本講義では「美学・芸術学」(塚田担当)の立場から人間の「美」に対する「思惟」を探り、その現在の意義を考察する。次いで「構成学」(樽松担当)の立場から「美の原理」を分析する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 塚田 耕一/10回) 「美学」とは芸術の本質を美とみなす考え方であり、「芸術学」とは芸術を体系的に研究しようとする考え方である。この2つの理論を踏まえて、人間の美的経験とは何かを論じる。 本講義では、対象をデザインの領域にまで広げて、これらの問題の意味を探っていく。</p> <p>(① 樽松 次郎/5回)美術・建築・デザインなどの造形領域における「美の原理」を構成学の視点で分析する。また色彩、形、材料などの造形要素を組立て、構成し、美を創りだすこと、このような創りだされた美的な物との出会いや体験に基づく心理作用についても探っていく。後半では造形感覚と美意識の問題を衣服造形の面で捉え考えていく。</p>	オムニバス方式
必修	創作技法研究 I	<p>(概要) この授業では、衣の創作に関する技法を多岐にわたる素材と時間軸上の美術造形の技法研究を行うことによって自己から出発する造形表現能力を育成する。ここで研究されるべき技法とは、様々な角度から創作の発動を促すための技法である。授業内容は以下の5つから構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モデリング制作法」:金属素材・樹脂素材、木工素材、紙素材など3つの素材別のテーマごとに形態の造形研究を行うが、学生はこの3つを順次履修する。 ・「コンストラクション制作法」 ・「マテリアル演習」 ・「古典技法研究」 ・「作家研究」 <p>(オムニバス方式・共同授業方式 全30回)</p> <p>モデリング制作法テーマa:(10 桐山征士、② 北折貴子/5回) 金属素材などの造形体験を通し、3次元空間における形態のダイナミズムの追求に重きを置く。</p> <p>モデリング制作法テーマb:(③ 千代崎寛、9 安部智子/5回) 木工素材などの造形体験を通し、形態を構成するパーツの精度の鋭敏化の追求に重きを置く。</p> <p>モデリング制作法テーマc:(5 瀬古徹、④ 森淳子/5回) 紙素材やその表面の描画体験を通し、ディテール、表面の現象などと形態全体とのバランス関係の探求に重きを置く。</p> <p>コンストラクション制作法:(⑤ 小山千暁/2回) フリースタイルの試行錯誤による造形研究を定着させるための形態分析及びその設計図化を行う。自身の感性が生み出した形態の数値化により、客観的な説得力の獲得と感性の強化を狙う。</p> <p>マテリアル演習:(① 樽松次郎、10 桐山征士/6回) 布に縛られることなく、反復を特性として持ち合わせた様々なマテリアルの体験的探求と衣服形態の造形的可能性を探求する。</p> <p>古典技法研究:(8 鈴木美和子、② 北折貴子/4回) 過去の時代の服飾造形を素材として、身体を支持体としながら身体そのものに沿って活かすのか、付属物の追加や装飾によって身体から離れ、隠すのかという「身体造形」としての衣服の創作技法研究である。</p> <p>作家研究:(① 樽松次郎、8 鈴木美和子、10 桐山征士、② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子/3回) 現代日本の造形作家で、素材、フォルム、意匠などで流行を追うことなく独自の秀でた視点から造形の提案を行っている3組の作家からその創意の伝授をうけ、これに対する研究を行う方式で実施する。</p>	オムニバス方式 モデリング制作法はa, b, cのテーマごと各2名の教員による共同授業方式 マテリアル演習、古典技法研究、作家研究はそれぞれに記載の教員による共同授業方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	創作研究Ⅰ	<p>(概要) 「創作技法研究」により造形表現技法能力を養いながら、創作のコンセプトの強化へ向かう科目である。「造形表現構想法」「色彩表現法」「応用課題」という2つの視点と応用により、創作の研究を進行して行く。</p> <p>(オムニバス方式・共同授業方式 全30回)</p> <p>造形表現構想法：(5 瀬古徹／14回) 衣服造形を「身体造形」に還元し、美術解剖学的な人体構造を再確認することにより、運動と造形の関係を探る。また視覚的に、或いは意味的にイメージリサーチを行い、造形イメージの発想力及び構想力の探求を行う。</p> <p>色彩表現法：(11 土屋純一／14回) 衣服創作の出発点として色彩を視覚的、触覚的、構造的にとらえ、また逆に役割を与えた色彩の再構築によつての創作研究を行う。</p> <p>応用課題：(10 桐山征士、② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子／2回) プレゼンテーションを行い、内部審査、外部審査による造形作家としての創作意識と作品そのものの強化を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>応用課題は記載の教員による共同授業方式</p>
必修	創作技法研究Ⅱ	<p>(概要) 前期の「創作技法研究Ⅰ」の内容を継続、発展させて行く。引き続き、様々な角度から創作の発動を促すための技法を通し、創作実践の上に研究を展開していく。</p> <p>(オムニバス方式・共同授業方式 全30回)</p> <p>モデリング制作法テーマa：(10 桐山征士、② 北折貴子／5回) 金属素材などの造形体験を通し、3次元空間における形態のダイナミズムの追求に重きを置く。「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>モデリング制作法テーマb：(③ 千代崎寛、9 安部智子／5回) 木工素材などの造形体験を通し、形態を構成するパーツの精度の鋭敏化の追求に重きを置く。「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>モデリング制作法テーマc：(5 瀬古徹、④ 森淳子／5回) 紙素材やその表面の描画体験を通し、ディテール、表面の現象などと形態全体とのバランス関係の探求に重きを置く。「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>コンストラクション制作法：(⑤ 小山千暁／2回) フリースタイルの試行錯誤による造形研究を定着させるための形態分析及びその設計図化を行う。自身の感性が生み出した形態の数値化により、客観的な説得力の獲得と感性の強化へ向いながら、「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>マテリアル演習①：(8 鈴木美和子／3回) 衣服の造形の物質的出発点であり、構造的出発点であり、感性的出発点であるマテリアルとそこからの創作研究を行う。またテキスタイルとの相互の可能性を探り、協調関係における衣服造形を行う。</p> <p>マテリアル演習②：(8 鈴木美和子、① 樽松次郎、10 桐山征士／3回) 衣服の造形の物質的出発点であり、構造的出発点であり、感性的出発点であるマテリアルとそこからの創作研究を行い、「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>古典技法研究：(8 鈴木美和子、② 北折貴子／4回) 「身体が布を覆う」という原点に回帰の方向での造形技法に重点を置いた古典研究を行う。「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p> <p>作家研究：(① 樽松次郎、8 鈴木美和子、10 桐山征士、② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子／3回) 現在の衣服造形作家の造形的な視点、社会に於ける表現の可能性などの研究と、そこからの構想法の研究を行う。「創作技法研究Ⅰ」の継続と発展を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>モデリング制作法はa, b, cのテーマごと各2名の教員による共同授業方式</p> <p>マテリアル演習②、古典技法研究、作家研究はそれぞれに記載の教員による共同授業方式</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	創作研究Ⅱ	<p>(概要) 「創作研究Ⅰ」を基盤としてそれぞれのテーマ立ての上、衣服造形の作品制作を行う。作品制作、プレゼンテーション演習-1、応用課題から構成される。</p> <p>(オムニバス方式・共同授業方式/全30回)</p> <p>作品制作：(10 桐山征士、② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子/14回) 与えられたテーマ上での創作の基盤となるコンセプトの確立とそこからの衣服創作への展開を狙う。後半で創作研究Ⅲに向けてのグループ分けを行う。</p> <p>プレゼンテーション演習-1：(5 瀬古徹/12回) 作品展示における設置、ライティング、写真、映像によるイメージ化などのプレゼンテーションの方法とその技術の研究を行う。</p> <p>プレゼンテーション演習-1：(③ 千代崎寛/6回) 作品展示における設置、ライティング、写真、映像によるイメージ化などのプレゼンテーションの方法とその技術の研究を行う。</p> <p>応用課題：(10 桐山征士、② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子/2回) プレゼンテーションを行い、内部審査、外部審査により造形作家としての創作意識と作品そのものの強化を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>作品制作、応用課題はそれぞれ記載の教員による共同授業方式</p> <p>プレゼンテーション演習は14回中の4回は共同授業方式をとる。</p>
必修	創作研究Ⅲ	<p>(概要) 「創作研究Ⅰ、Ⅱ」を基盤とし、「創作技法研究Ⅰ、Ⅱ」の技法、素材から受ける創作活動を本源としながら、それぞれのテーマ立ての上、衣服造形の作品制作を行う。またこの創作の流れを徐々に修了制作へと移行させていく。作品制作、プレゼンテーション演習-2、応用課題から構成される。</p> <p>(オムニバス方式・共同授業方式/全30回)</p> <p>作品制作：(② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子、① 榎松次郎、8 鈴木美和子、⑤ 小山千暁/15回) 「創作技法研究Ⅱ」と「創作研究Ⅱ」の統合を行い、個人テーマを設定した上で創作研究を行う。 以下の3クラスで指導する。 Aクラス：② 北折、Bクラス：③ 千代崎、9 安部、 Cクラス：5 瀬古、④ 森 ① 榎松、8 鈴木はマテリアルの指導を一部担当し、⑤ 小山は全体形態の指導をする。</p> <p>プレゼンテーション演習-2 (5 瀬古徹/12回、③ 千代崎寛/10回) プレゼンテーション演習-1の継続と発展を行う。</p> <p>応用課題：(② 北折貴子、③ 千代崎寛、9 安部智子、5 瀬古徹、④ 森淳子/2回) プレゼンテーションを行い、1年次の継続と発展を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>作品制作ではA、B、Cクラスでの教員による授業に、①榎松、8鈴木、⑤小山の3名が参加</p> <p>プレゼンテーション演習-2と応用課題は記載の教員による共同授業方式</p>
必修	修了制作	<p>(概要) 「創作技法研究」と「創作研究」による研究の成果となる科目である。個人創作テーマの設定を行い、創作を行う。プレゼンテーションのプランニングを行ったうえで、修了制作発表を行う。発表は、展覧会場等におけるインスタレーションやパフォーマンス形式を適宜選択する。 研究指導は創作研究Ⅲから続くA、B、Cの3つのクラスに分かれた教員2が指導にあたり、① 榎松、8 鈴木はマテリアルの指導を一部担当し、⑤ 小山は全体形態の指導を担当する。 Aクラス：② 北折貴子 Bクラス：③ 千代崎寛、9 安部智子 Cクラス：5 瀬古徹、④ 森淳子</p> <p>(共同授業方式/全15回)</p> <p>(② 北折貴子) 身体とそれが存在する3次元空間との相関関係において、「ダイナミズム」の表現に重きを置いた形態(フォルム)の創出に関して衣服造形としての作品の創作により創作指導を行う。</p> <p>(③ 千代崎寛) 身体とそれを内包する形態(フォルム)との関係の「緊張感」を主題とし、その創出に関して、パーツの造形精度に主眼を置き、衣服造形としての作品の創作により9. 安部智子と共同で創作指導を行う。</p>	<p>A、B、Cクラスでの教員による授業に、①榎松、8鈴木、⑤小山の3名が参加</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修	修了制作	<p>(9 安部智子) 身体とそれを内包する形態（フォルム）との関係の「緊張感」を主題とし、その創出に関して、パーツの造形精度に主眼を置き、衣服造形としての作品の創作により4. 千代崎寛と共同で研究指導を行う。</p> <p>(5 瀬古徹) 身体に沿わせることによって現れる表面の「現象」と、「象徴」として、或いは「記号」としてのディテールによって構成される形態（フォルム）の創出に関して、衣服造形としての作品の創作により、6. 森淳子と共同で研究指導を行う。</p> <p>(4 森淳子) 身体に沿わせることによって現れる表面の「現象」と、「象徴」として、或いは「記号」としてのディテールによって構成される形態（フォルム）の創出に関して、衣服造形としての作品の創作により5. 瀬古徹と共同で創作指導を行う。</p> <p>(1 樽松次郎) 身体とそれを包む素材としての機能を超え、ある時は身体から自立した構造体であり、ある時はもうひとつの皮膚としての「マテリアル」を軸とした形態（フォルム）の創出に関して、衣服造形としての作品の創作により創作指導を行う。</p> <p>(8 鈴木美和子) 身体とそれを包む素材としての機能を超え、ある時は身体から自立した構造体であり、ある時はもうひとつの皮膚としての「マテリアル」を軸とした形態（フォルム）の創出に関して、衣服造形としての作品の創作により研究指導を行う。</p> <p>(5 小山千暁) 身体上に個人の感性によって作りだされた形態と、その分析、数値化を経た展開製図との往来のなかで、全体としての立体像の美を考察し、「コンストラクション」を軸とした形態（フォルム）の創出に関して、衣服造形としての作品の創作により創作指導を行う。</p>	A, B, Cクラスでの教員による授業に、①樽松、8鈴木、⑤小山の3名が参加
自由	メディアと造形表現	<p>(概要) ファッションの造型表現を、「ファッションとアートの接点」という観点から追い、その歴史の流れと現在の状況、さらには、メディアの中におけるファッションの造型表現の展開を分析。ファッションの進化に欠かせない「造型表現」について考察を重ねる。</p> <p>(オムニバス方式) 全15回 (12 田居克人/7回) ファッションが自己表現であるという原点を踏まえ、造型表現の重要性を理解し、情報技術の急速な発展により日々変化するメディアとの関わりを通じ表現活動の方法と親和性、そして重要性を学ぶ。</p> <p>(13 生駒芳子/8回) ファッションの造型表現がいかに、ファッションの進化に影響をもたらしたか？ 新たな造型表現こそが、ファッションを進化させる原動力であるという視点を、歴史、現状、メディア効果を通して明らかにしていく。</p>	オムニバス方式
自由	パリの文化と日常の美	衣の造形の背景にある都市の文化と日常の美をヨーロッパの代表的な都市であるパリの中でどのようにとらえられるのかを学習する。	